

見える化シート

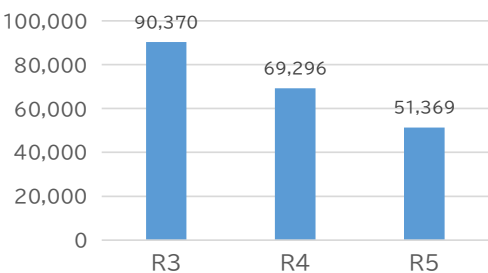
基準日

令和6年3月31日現在

基本情報

施設名称	八戸まちなか広場	
所在地	八戸市大字三日町21-1	
所管部署	八戸ポータルミュージアム	
設置の目的	街なかの「庭」のような役割を担うことを目的とし、地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促す拠点として設置するもの。	

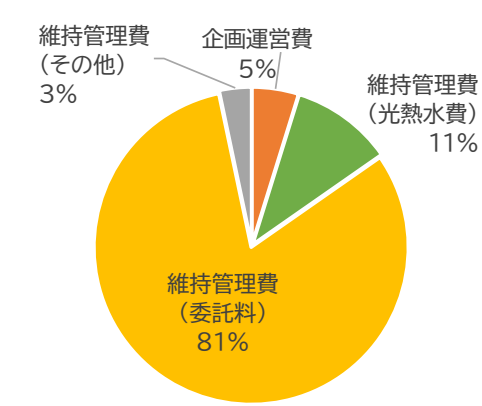
管理・運営の概要

土地	土地面積	1,090.38			m ²	所有状況	市有地						
	用途地域	商業地域											
建物	建物名称	八戸まちなか広場											
	建築年月日	平成30年6月29日											
	延床面積	1,249.85			m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	2	地下	1	
	整備費用	1,652,594			千円	財産区分	行政財産						
	耐震診断	不要				診断結果	－						
運営	開館時間	6:00～23:00					来館者数(人) 						
	休館日	なし											
	開館日数(日)	R3	309	R4	364	R5							365
	運営形態	直営											
利用	主な来館者	市民(全市的)		観光客									
	延来館者数(人)	R3	90,370	R4	69,296							R5	51,369
	1日当たり来館者数(人)	R3	292	R4	190							R5	140
	利用料金	入館料	無料									貸館利用料	八戸まちなか広場条例による

※来館者数は、Wi-Fi機能があるスマホを保有した人が5分以上6時間未満の滞在した人数をスマートフォン保有率で除して求めた推計値。

※利用料金(貸館)の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	－		正職員	会計年度任用職員
利用時間	－	原付・バイク	－			
入出庫時間	－	自転車	－		－	－
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ		自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
－	－	○	○		－	－
災害指定避難						蔵書数 (冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山		
－	－	－	－	－		

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	—		—		—	
	企画運営費	3,474	85%	2,156	85%	2,348	71%
	施設の維持管理費	40,624	94%	39,819	94%	46,618	90%
	うち、光熱水費	3,500		4,601		5,146	
	うち、委託料	35,390	95%	34,208	95%	39,853	90%
	合計	44,098		41,975		48,966	
収入 (財源)	使用料	788		1,034		2,361	
	その他	—		—		—	
	一般財源	43,310		40,941		46,605	
	合計	44,098		41,975		48,966	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和5年度)			
1. 人に係る経費 八戸ポータルミュージアムの職員が兼務しています。 2. 企画運営費 運営方針(基本方針)に基づき、企画事業を実施しています。また、イベント等の周知のための情報発信経費も必要となっています。 3. 施設の維持管理費 開館時間が6時から23時と長く、基本的に休館日を設けていないため、日常清掃や警備に関する費用が多くなっています。また、定期的にシンボルオブジェ「水の樹」や建物全面のガラス清掃が必要となっています。 また、大型ビジョンや大型スライドガラスといった特殊な設備の維持管理に一定の経費を要しています。							

取組の状況	
設置条例	八戸まちなか広場条例
運営方針等	第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針 ー未来を創ろう 2030ー
取組の内容	1. 施設の特徴 八戸まちなか広場「マチニワ」は、まちなかの「庭」をコンセプトにした「光・緑・水・風」の自然を感じられる空間として平成30年に整備しました。正面にある「はっち」と連携して地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促すことを目的としており、日常的な居場所として、また、イベント開催時には「ハレ」の場として、自由な雰囲気をまちなかに提供しています。 自然を感じられる空間がコンセプトのため、空調設備を設けていないのがマチニワの大きな特徴です。 【利用状況】 マチニワ館内には、来館者が気軽にくつろげるように椅子やテーブルを各所に備えてあり、バス到着までのちょっとした待ち時間やお昼休憩、読書や学生の勉強、談笑等のコミュニティスペースとして日常的に使用されています。また、マチニワ中央には、八戸青年会議所の「海の樹構想」をモチーフとしたシンボルオブジェ「水の樹」と、それを取り囲むように設置された噴水やミスト装置があり、これらから定期的に水が出るようになっています。夏になると老若男女を問わず、水の樹や噴水装置等から涼をとる姿が見られます。 イベント開催時には、大型ビジョンに映像を投影しながらステージでパフォーマンスが行われたり、広場の一角で物品販売が行われたりする等、様々な属性の個人や団体による多種多様な活動が日常的に繰り広げられています。  ←シンボルオブジェ「水の樹」 八戸青年会議所の「海の樹構想」をモチーフにアートディレクターの森本千絵さんが監修。 ホッピングウォーター(噴水)→ 夏になると涼を求める親子連れの来館者が多く見られる。 

○施設の利用状況の推移

	利用件数	月平均
令和3年度	212件	22件
令和4年度	273件	23件
令和5年度	381件	32件

※令和3年度について、新型コロナウイルス感染症の影響による休館の期間があるため「月平均」は10カ月で算出

2. 主な事業(令和5年度)

(1) マチニワ京舞披露

さくら野百貨店八戸店との連携企画。大京都展の開催に合わせ、舞妓さんによる京舞披露をマチニワのステージで2日間にわたって開催しました。

(2) ダンボール迷路&積み木であそぼ！

ダンボール迷路と積み木3,000ピース、人工芝生を設置し、誰でも気軽に立ち寄り遊べる空間を提供しました。

(3) マチニワ アンブレラスカイ

梅雨の時期を楽しく過ごしてもらえるよう、カラフルな傘をマチニワの天井に展示しました。

(4) マチニワ大道芸2023

全国で活躍する大道芸パフォーマーの技を鑑賞できる機会として東北では数少ない大道芸フェスティバルを2日間にわたって開催しました。

(5) 大型ビジョンで季節の合唱・合奏を発表しよう！

市内の保育園・幼稚園から大学のサークル等による季節の合唱や合奏動画を募集し、大型ビジョンで放映しました。

(6) マチニワピアノ

令和元年より、だれでも自由に弾くことができるストリートピアノをマチニワ2階に設置しています。

(7) マチニワイベント支援事業

マチニワを会場とした飲食・物販等のイベントを開催する際の使用料を免除することで、地域を活性化する事業。令和5年度は12のイベントを支援しました。

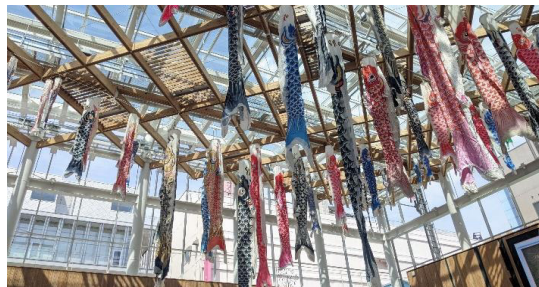
マチニワ えんぶり公演



マチニワ京舞披露(1)



マチニワ こいのぼり展示



マチニワ アンブレラスカイ(3)



マチニワ クリスマスパルーンデコレーション



マチニワ大道芸2023(4)



3. 維持管理費と財源の見通しについて(はっち・マチニワ)

○過去3年度における施設運営費の平均

(単位：千円)

		はっち	マチニワ	合計
支出	人に係る経費	126,586	—	126,586
	企画運営費	24,720	2,659	27,379
	施設の維持管理費	140,172	42,354	182,526
	うち、光熱水費	29,151	4,416	33,567
	うち、委託料	90,921	36,484	127,405
	合計	291,478	45,013	336,491
収入 (財源)	使用料	15,239	1,394	16,633
	その他	4,560	—	4,560
	一般財源	271,679	43,619	315,298
	合計	291,478	45,013	336,491

(1) 施設維持管理について

① 施設維持管理の状況

はっち・マチニワ共に、施設の貸出しを行うことを前提としているため、貸館受付に必要なシステム経費を要しています。マチニワについては、シンボルオブジェである水の樹や、噴水・ミスト放出を行う水景システム、大型ビジョンや大型スライドガラスといった特殊な設備の維持管理に一定の経費を要しています。また、建物がガラス張りであることや開館時間が他の公共施設よりも長いことから清掃や警備に要する費用も一定程度必要となっています。

現在は、竣工後5年と間もないことから補修費用はほとんど要していませんが、今後一定年数が経過するに連れて、水の樹や水景システムといった水回りの設備や大型スライドガラスといった特殊設備に補修費用を要することが見込まれます。

② 維持管理費削減の取組

はっち職員がはっちとマチニワを一体で維持管理を行うほか、維持管理委託の仕様を見直すことで経費の削減を図っています。今後も引き続き、効果的かつ効率的な施設運営に努めます。

(2) 財源の見通しについて

施設を占有しての利用については、はっち、マチニワを併せて年間の申請件数は2,500～3,000件程度、利用件数は年間3,000～4,000件となっており、公共利用などの減免利用を除き、受益者負担として施設使用料を徴収しています。多くの場合、これらの利用は無料あるいは有料な場合も低廉な料金で、誰もが参加や利用ができ、一般財源を活用し施設使用料の水準を抑えることで、利用申請者のみならず参加者を含めて幅広く市民等による利用や活動につながっています。これまで同様、施設の利用促進と収入の確保に努めていきます。

また、貸館利用に留まらず、市民活動やまちづくりのニーズを掘り起こし、文化や観光、まちづくりに関する市民参加型の企画事業に取り組むためのスタッフや事業に係る費用、更には誰もが気軽に安心して利用できる公共的な居場所としての機能を維持するための費用に一般財源を充てていますが、引き続き建物貸付収入や、企画に連動した補助金等その他の財源確保にも努めていきます。